

病名： _____突発性難聴

症状： 病名の通り、ある日突然に耳の聞こえが悪くなります。

耳がつまった感じ（難聴）が起こり、耳鳴り、めまいを伴うこともあります。

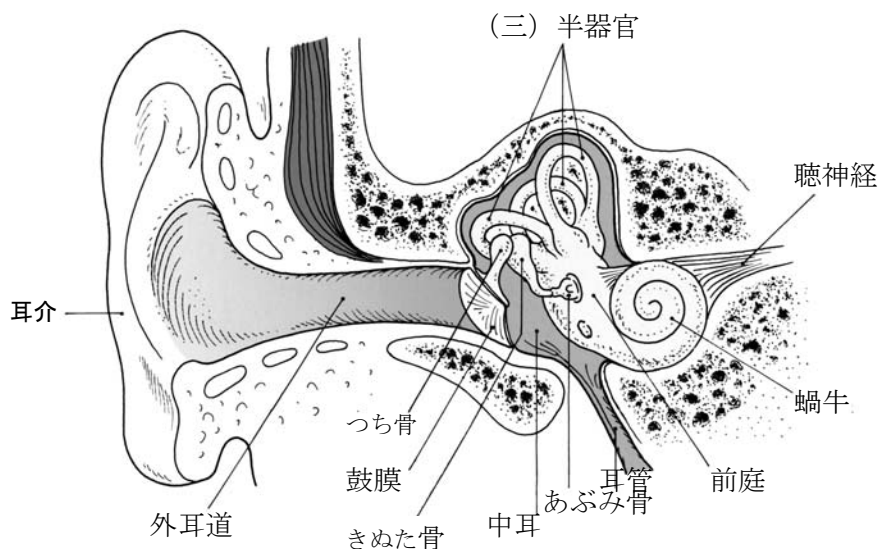
病態： 急激な内耳機能低下を起こした状態です。

内耳は鼓膜の奥にある中耳のさらに奥にあります。

内耳(前庭、蝸牛、三半規管)は、聴覚と平衡覚を感じとっています。

この内耳が急激に機能低下をきたし、上記の症状が現れます。

はっきりとした原因は不明ですが、内耳を養う血管がつまったり血流が悪くなって起こるという説やウイルス感染説などがあります。



治療： 早期の治療開始が重要です。軽症の場合を除き入院した上で

①安静にして、耳に大きな音が入らないように気をつけ内耳を休ませます。

②ステロイド(神経のダメージを元に戻すための薬)大量投与/漸減療法

投与方法) 日中4~8時間、500ml(ボトル)1-2本の補液剤に混じて点滴します。

日々徐々にステロイドの量を減らしていきます(漸減療法)。

約2週間で点滴治療は終了します。その後は内服治療に切り替わります。

副作用) 胃痛、血糖上昇、カゼをひきやすくなるなどの副作用が起こることがあるので注意が必要です。

時々、血液検査で副作用のチェックを行います。

③循環改善薬の点滴、注射、内服

・ATP、メイロンという注射薬を使います。

・初期治療の効果が乏しい場合には3-5日後より、プロスタグランジンという薬を使います

④星状神経節ブロック

首にある自律神経(節)に注射をして、ブロックする治療です。

血管の締めつけをやわらげ、血流を増やします。麻酔科医師に依頼して行います。

⑤抗めまい薬の内服、などで治療します。

—
治療のポイント： 治りやすくするポイントは**安静と早期の治療開始**です。

1. 早期の治療開始

発症後、治療開始までの時間が短いほど治療効果も高くなります。1週間以内の治療開始は治療効果が高く治癒しやすいことが明らかになっています。また、遅くても2週間以内に治療を始めないと治療効果が悪いことが分かっています。

約2週間の入院が必要ですが、入院中には完治せず、その後も内服治療を続けるうちに回復していくことが多いです。最大で6ヶ月は、聴力検査を行いながら経過を見ます。

なお、①めまいを伴わない場合や、②発症時の難聴が軽度の場合、③低音部のみの難聴の場合は、治癒率が高くなります。

2. 脳腫瘍の除外診断

まれではありますが、脳腫瘍の一種である聴神経腫瘍でも、突発性難聴と同じような症状で発症することがあります。治療中に聴力が変動する時や、めまいがなかなか治らない時は、念のためにMRIで頭の中の検査をすることがあります。

3. その他の治療として

①高気圧酸素療法があります。

当院では行なえない治療です。

高気圧酸素室に入って血液中の酸素濃度を高めて内耳を活性化する治療です。

当院での治療で十分に治癒せず、この治療を希望する場合には紹介します。

国立病院呉医療センター、広島赤十字病院と公立みつぎ総合病院に設備があります。

②中耳（鼓室）内ステロイド注入法：最近始まった治療法です。まだ、治療成績ははっきりわかっていません。鼓膜にレーザーで穴（1.6mm）をあけて、8日間連続でデカドロンという薬を注入します（30分間臥床安静、嚥下しないようにする）。

検査：肝炎ウィルスの検査を行います。潜在的に肝炎ウィルスをお持ちの場合、治療によって肝炎ウィルスが活性化することがあり、その素質がないかを検査します。

場合により、内科への受診が必要のことがあります。

補足)

- ・治療中に疑問に思ったことは、ただちに医師、看護師に訴えることが大事です。何でも遠慮せずにお申し出ください。
- ・治療中、行ないたくない治療などいつでも患者さまのお申し出により中止することができます。
- ・毎朝、診察を3西処置室にて行います（開院日は8：30に、休院日は9：00に）。
- ・月曜日と木曜日に聴力検査を行い、治療効果を判定します。

市立三次中央病院・耳鼻咽喉科